



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第13号

2026年8月27日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

わく算7日目

わく算7日目。残すところ、今年の夏のわく算もあと1日となりました。ここまで無事に、そして子どもとSPさんの笑顔溢れる算数教室が開催できていることに感謝です。連日参加してくれているSPさんも何人かいます。お疲れ様です。あと一日、よろしくお願いします！

わく算開催中、「素敵だなあ」「すごいなあ」と思う場面がたくさんあります。今日はその中から3つ、紹介したいと思います。

1. 「ここなら大丈夫！」

わく算には、全学年の小学生がやってきます。初日は、6年生でも不安そうでした。1年生だと、泣いてしまう子もちらほらいました。当然です。つい半年前にはまだ保育園（幼稚園）児だったのですから……。でも、泣いていた1年生でも、1回参加したら2回目は笑顔でやってきます。3回目ともなると、とびこむように入ってくる子もいます。初日は泣いていたある1年生の女の子は、今日が4回目でした。担当のSPさんはそれぞれ違う人でしたが、今日はスキップで入ってきました。わく算に、そしてSPさんに、全幅の信頼をおいています。それぞれのSPさんがそれぞれの関わり方で、必ず「楽しかった」と思わせてくれるのですから、すごいです。リピーターが多くなるのも頷けます。



2. 「どこで悩んでる？」

中学生を担当したSPさんが、こんなことを話してくれました。「中学生ともなると、なかなか自分からは話してくれなくなりますね。中学生と小学生の違いをととても実感しました。今日担当した3人は、みんな黙々と学習に取り組んでいました。途中で何度か『大丈夫？』と聞いたのですが、返ってくる言葉は『大丈夫です。』ばかりでした。これでいいのかな？と思ったので、途中から聞き方を変えてみました。『どこで悩んでる？』『ヒントが欲



しいところはある?』『どこか困っている問題ある?』と聞くと、ちょっと考えてから『実は、ここがよく分からなくて……。』と教えてくれました。」素晴らしい気付き、素晴らしい対応力だと思いました。こんなS Pさんがわく算にはゴロゴロいます。一体どこでそのセンスを磨いてくるのでしょうか……。

3. その子その子の目標

わく算開始から、1時間くらい経過し、ある1年生の男の子をふと見たら、S Pさんの背中に乗っていました。そのS Pさんは後半30分ほど、ずっとその子を背中に乗せながら、全力で関わってくれました。それもずっと笑顔です。終了後、「大変だったね。」と声をかけたら「疲れました!

(笑)でも、『6年間、ここに来たら先生が担当がいい!』と言ってくれたので、嬉しかったです。最初は集中して学習できていたのですが、途中からプツンと集中が切れてしまっていて……。でも、前回担当したS Pさんからの引き継ぎで聞いていたよりはずっとたくさん問題に取り組めたので、今日はこの子はもう十分頑張ったな、と思いました。だから、後半はとにかく楽しく過ごそう!たくさん付き合おう!と思って接していました。」と話してくれました。

他の子と比べてどうか、ではなく、その子を視て判断をしていたそのS Pさんは、まさに“個別最適な学び”を実現してくれていたと思います。目の前の子、一人一人にそれぞれ目標があるはずです。「他の子と比べるのではなく、目の前のその子が昨日に比べて今日、今日に比べて明日、と成長できるように支援することが、個別最適な学びの根幹であり、教師の仕事でもある。」と中村コーディネーターもお話しされていました。

